

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書

国民・患者・一般医に対する啓発・専門医育成プロジェクト

研究分担者 長堀 正和 東京医科歯科大学医学部 消化器内科 特任准教授

研究要旨：本プロジェクトは炎症性腸疾患（IBD）の診断・治療・予後・管理等に関する知識等を、国民・患者およびその家族、また、一般臨床医・医療従事者に広く普及することと同時に、IBD 専門医を育成するプログラムを創成することを目的とした活動である。本年度、国民・患者および家族を対象とし、渡辺班にて行われてきた一般向け研究成果報告会の継続に関して、本研究班にて議論を行った。また、同様に継続して行われてきた一般医向け研究成果報告会は千葉県地区での会がすべて終了し、奈良県地区における会も本年度3月に終了予定である。今後は改訂予定の「一目で分かる IBD」等の情報を新たな研究班 HP を介して発信していく予定である。

IBD 専門医を育成するプログラムを創成するに当たり、北海道地区において、クラウド型電子カルテシステムを用いたコホート研究が進行している。このシステムにより、IBD 専門施設と一般医との間での患者情報に関する共有が容易となるだけでなく、専門医の数や、診療上の役割に関するニーズが明らかになることが期待される。また、導入に要するコストに問題が解決されれば、他地区での導入が可能であることが明らかとなった。また、新難病法において各都道府県ごとに行われる難病指定医研修の参加医師は、IBD 専門医育成の候補の1つと考えられた。また、学会へ移行予定の炎症性腸疾患研究会（JSIBD）における教育プログラムとの連携も検討していく予定である。

共同研究者

鈴木康夫（東邦大学医療センター佐倉病院・消化器内科）

竹内健（東邦大学医療センター佐倉病院・消化器内科）

藤谷幹浩（旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野）

藤井久男（奈良県立医科大学中央内視鏡超音波部）

中村志郎（兵庫医科大学内科学下部消化管科）

穂苅量太（防衛医科大学・内科）

金井隆典（慶應義塾大学医学部・消化器内科）

また、一般臨床医・医療従事者に広く普及することと同時に、IBD 専門医を育成するプログラムを創成することを目的とする。

B. 研究方法

1. 国民・患者（および家族）・一般医に対する啓発・広報活動

国民および患者・家族に対する啓発活動としては、先の渡辺班にて平成 19 年度から全国各地において計 12 回の研究成果報告会が開催され、合わせて 2100 人を超える参加者が記録された。本年度はそこで得られたアンケートの結果などを検討し、来年度以降の本活動の進め方に関して検討を行った。また、一般医に対する啓発活動に関しては、先の渡辺班からの継続として、千葉県地区および奈良県地区において、研究成果報告会が開催された。これらの会は各地区医師会からの協力

A. 研究目的

本プロジェクトは炎症性腸疾患（IBD）の診断・治療・予後・管理等に関する知識、特に本研究班における研究成果を、国民・患者およびその家族、

を基で開催されたが、来年度以降の継続に関して、各地区担当先生の意見を吸い上げ、開催における問題点を検討し、来年度以降の開催方法等に関する議論を行った。

2. IBD 専門医育成プログラム創設

IBD 専門医（内科医および外科医）が必要とされることは自明であるが、実際の育成プログラムに関しては前例がなく、まずは、北海道地区において、クラウド型電子カルテシステムを用いたコホート研究が進行している。このシステムの研究目的として、専門医の必要数や、診療上の役割に関するニーズが明らかになることが期待される。

（倫理面への配慮）

アンケート等の患者から得られた情報に関する情報の公表に際しては、個人が同定できる内容は含まれない。「北海道地区 IBD 診療ネットワーク」は「厚生労働省 医療情報システムの安全管理ガイドライン」等の関連ガイドラインを遵守し、患者情報の取り扱いに関して十分に保護体制をとって行われている。

C. 研究結果

1. 国民・患者（および家族）・一般医に対する啓発・広報活動

先の渡辺班にて平成 19 年度から全国各地区において計 12 回の研究報告会が開催され、合わせて 2100 人を超える参加者が記録された。アンケートの結果を検討すると参加者の多くから良好な感想が得られた。一方で、開催医療機関における負担は大きく、同様の形態で継続していくことは容易ではないと思われた。また、本報告会とは別に、先の渡辺班において作成された患者向け情報冊子「知っておきたい治療に必要な基礎知識」（潰瘍性大腸炎およびクローン病）の内容に関して検討を行ったが、いずれの疾患においても新薬（抗 TNF- 抗体製剤やタクロリムスなど）の出現に合わせて、その内容を大きくアップデートした。

また、一般医に対する啓発活動に関しては、先の渡辺班からの継続として、千葉県地区および

奈良県地区において、研究成果報告会が開催された（図 1 および 2）。これらの会は各地区医師会からの協力を基に開催されたが、参加医師の感想はおおむね良好なものであった。

図 1 千葉県一般臨床医向け研究成果報告会

千葉県一般臨床医向け研究成果報告会の開催状況 東邦大学医療センター 佐倉病院 消化器内科 鈴木康夫先生				
開催日	会場	開催機関	参加人数	
1 平成24年11月20日	成田保健福祉館多目的ホール	印旛地域保健医療協議会	54	
2 平成25年2月26日	蓬萊閣	山武・長生・夷隅地域保健医療協議会	56	
3 平成25年3月13日	千葉市保健医療センター	千葉地域保健医療協議会	21	
4 平成25年9月25日	衛生会館	東葛北部地域保健医療協議会	10	
5 平成25年10月31日	柏市総合保健医療福祉施設「ウェルネス柏」	東葛北部地域保健医療協議会	3	
6 平成25年11月28日	船橋フェース「きららホール」	東葛南部地域保健医療協議会	19	
7 平成26年3月12日	安房地域医療センター	安房保健医療協議会	9	
8 平成26年4月15日	旭市医師会館	香取海浜保健医療協議会	11	
9 平成26年5月28日	医療薬会館(木更津看護学院) 3階大教室	習志野木更津保健医療協議会	11	
10 平成26年6月14日	五井グランドホテル	市原地域保健医療協議会	18	

図 2 奈良県一般臨床医向け研究成果報告会

奈良県一般臨床医向け研究成果報告会の開催状況 奈良県立医科大学附属病院 中央内視鏡・超音波部 藤井久男先生			
開催日	開催地区	開催機関	参加人数
1 2013年8月3日	天理地区		16
2 2013年8月4日	大和郡山市		18
3 2013年8月5日	大和高田市・北葛城地区		21
4 2013年8月6日	奈良市		21
5 2013年8月7日	橿原地区		12
6 2013年8月8日	五條市・吉野郡地区		21
7 2013年8月9日	御所市地区		9
8 2013年8月10日	桜井地区		28
9 2013年8月11日	宇陀地区		18
10 2013年8月12日	生駒地区		

2. 専門医育成プログラム創設

北海道地区 IBD 診療ネットワークは、クラウド型電子カルテシステムを用い、IBD 専門施設と一般医との間での双方向に容易に患者情報を共有するシステムである（図 3）。登録症例 18 例の時点の結果であるが、クローン病疑い症例 14 例のうち 12 例で確定診断がなされ、クローン病と確定診断された 3 例は寛解導入治療の後、地元紹介医でフォローアップが行われている。また、クローン病症例の 4 例はいずれも治療方針の変更が行われた。今後、本システムを用いた診療・研究により、専門医の数や、診療上の役割に関するニーズが明らかになることが期待される。また、導入に要するコストに問題が解決されれば、他地区での導入が可能であることが明らかとなった。成

果・問題点は図4にまとめる。

図3 北海道地区 IBD 診療ネットワーク

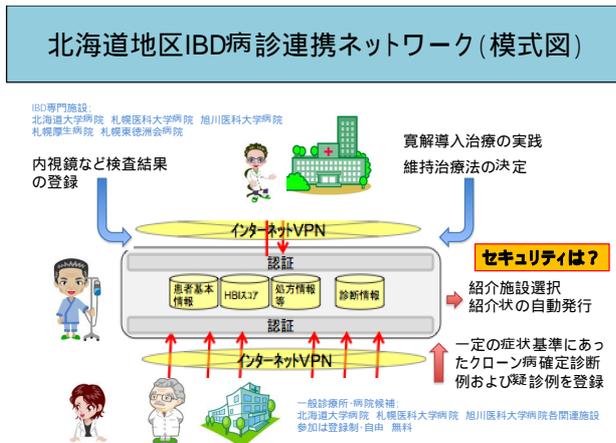


図4 北海道地区 IBD 診療ネットワークまとめ

病診連携ネットワークで期待される効果と展望

- IBD病診連携で国内のモデルケースとなる可能性がある。
- 一般医、消化器科医からIBDを専門とする消化器医への紹介など、病診連携の実態を明らかにし、以下の要件が明らかとなる。
 - 必要な知識・技能
 - 社会的役割
 - 社会的必要性
 - IBD医療の均てん化
 - 専門医の必要数、必要な地域や専門施設数
- クラウドの構築には一定の費用が必要だが、連携病院への証明書の発行のみであれば低額である。

D. 考察

1. 国民・患者（および家族）・一般医に対する啓発・広報活動

国民・患者向けの研究成果報告会（市民公開講座）は患者およびその家族の反応は良好であったが、各医療機関における負担が大きく、今後は、アップデートした患者向け情報冊子「知っておきたい治療に必要な基礎知識」の研究班 HP 上での公開の他、市民公開講座の動画配信など、研究班 HP を介した情報発信を積極的に推進していくことが望ましいと思われた。

また、一般医における啓発活動として行った研究成果報告会は、必ずしも適切な対象医師を効率的に啓発しているとはいえない実情が明らかと

なった。また、医師会単位で開催されてはきたが、その積極性はまちまちであり、会場費や人件費の調達、スケジュールの確保など様々な問題点が開催施設より指摘があった。本研究成果報告会において使用されていた教材「一目でわかる IBD」はその内容が古くなっており、今回、改訂ワーキンググループを立ち上げ、改訂作業が開始された。改訂版を次年度夏の総会にて公表し、その改訂版を公表する他、研究班 HP にその内容を基にした e-learning のシステムを確立していきたいと考えている。

2. 専門医育成プログラム創成

北海道地区 IBD 診療ネットワークは、病診連携としてはモデルケースになると思われるが、全国のあらゆる地区で同様のシステムが有用かは検討が必要となる。専門医育成にて適切な対象医師を同定する他に、e-learning などの新たな育成プログラムを創成する必要があり、来年度以降の課題と思われた。

E. 結論

国民・患者（および家族）・一般医に対する啓発・広報活動に関しては、今後、更新される診療ガイドラインや治療指針も含めて、IBD における研究や診療内容の進歩に伴い、今後も提供する情報を適時、アップデートしていくことが重要と思われた。また、その情報を如何に多くの人に効率よく伝達していくかについては、近日オープン予定の研究班 HP を積極的に活用していく予定である。

IBD 専門医育成プログラムの創成は容易ではないが、その育成対象となる消化器医（内科医および外科医）として、新難病法において各都道府県ごとに行われる難病指定医研修の参加医師が候補の1つと考えられた。また、学会へ移行予定の炎症性腸疾患研究会（JSIBD）における教育プログラムとの連携も検討していく予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Saito E, Nagahori M, Fujii T, Otsuka K, Watanabe M: Efficacy of salvage therapy and its effect on operative outcomes in patients with ulcerative colitis . Digestion JGA Special Issue 2014. 89(1):55-60,2014
- 2) Fujii T, Naganuma M, Kitazume Y, Saito E, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M: Advancing magnetic resonance imaging in Crohn's disease. Digestion.89(1):24-30,2014
- 3) Ohfujii S, Fukushima W, Watanabe K, Sasaki S, Yamagami H, Nagahori M, Watanabe M, Hirota Y, for the Japanese Case-Control Study Group for Ulcerative Colitis: Pre-illness isoflavone consumption and disease risk of ulcerative colitis: a multicenter case-control study in Japan. PloS One. 9: 110270,2014
- 4) Takenaka K, Ohtsuka K, Kitazume Y, Nagahori M, Fujii T, Saito E, Naganuma M, Araki A, Watanabe M: Comparison of magnetic resonance and balloon enteroscopic examination of the small intestine in patients with Crohn's disease. Gastroenterology.147(2):334-342,2014
- 5) Hisamatsu T, Ueno F, Matsumoto T, Kobayashi K, Koganei K, Kunisaki R, Hirai F, Nagahori M, Matsushita M, Kobayashi K, Kishimoto M, Takeno M, Tanaka M, Inoue N, Hibi T: The 2nd edition of consensus statements for the diagnosis and management of intestinal Behçet's disease: indication of anti-TNF

monoclonal antibodies. J Gastroenterol. 49(1):156-162,2014

- 6) 長沼 誠、鈴木康夫、松岡克善、金井隆典、国崎玲子、吉村直樹、長堀正和、渡辺 守 活動性潰瘍性大腸炎に対する外来タクロリムス投与の安全性および血中濃度推移に関する前向き多施設共同研究 日本消化器病学会雑誌 111(2) 276-287 2014

2. 学会発表

- 1) Fujii T, Naganum M, Kitazume Y, Takenaka K, Saito E, Nagahori M, Otsuka K, Watanabe M: MR enterocolonography can identify patients who need additional treatment by predicting recurrence, hospitalization and surgery of Crohn's disease patients in remission. UEGW2014, Vienna, Austria. 2014年10月20日
- 2) Takenaka K, Ohtsuka K, Kitadume Y, Fujii T, Saito E, Nagahori M, Watanabe M: Magnetic resonance enterocolonography can detect small intestinal active lesions in crohn's disease;comparison with balloon enteroscopy.UEGW2014, Vienna, Austria. 2014年10月20日
- 3) Takenaka K, Otsuka K, Nagahori M, Fujii T, Saito E, Watanabe M: Comparison of Magnetic Resonance and Balloon Enteroscopic Examination of Deep Small Intestine in Patients with Crohn's Disease. 2nd annual meeting of Asian organization for crohn's and colitis. Seoul, Korea. 2014年6月19日-21日
- 4) Takenaka K, Otsuka K, Nagahori M, Fujii T, Saito E, Watanabe M: Comparing MR enterocolonography to enteroscopy in Crohn's disease, especially focusing on small intestinal findings. 9th congress of European Crohn's and Colitis Organisation . Copenhagen, Denmark. 2014

年 2 月 20 日 -22 日

- 5) 竹中健人、大塚和朗、北詰良雄、藤井俊光、長堀正和、齊藤詠子、渡辺 守. クロウン病小腸病変の MRI スコアと内視鏡スコアの比較 第 52 回 小腸研究会. 東京 2014 年 11 月 15 日
- 6) 藤井俊光、北詰良雄、齊藤詠子、長堀正和、大塚和朗、渡辺 守 クロウン病における MRenterocolonography(MREC)での病態評価と長期予後の関連. 第 52 回 小腸研究会. 東京. 2014 年 11 月 15 日
- 7) 村川美也子、和田祥城、藤井俊光、齊藤詠子、藤田めぐみ、井津井康浩、大島茂、岡田英理子、中川美奈、岡本隆一、土屋輝一郎、柿沼 晴、東 正新、永石宇司、大岡真也、長堀正和、中村哲也、荒木昭博、大塚和朗、朝比奈康浩、渡辺 守、油谷知毅、菊池章史、大石克己、竹本 暁、菅原江美子、伊藤栄作、明石 巧. 転移性骨腫瘍の免疫組織学的所見が診断に有用であった原発性小腸癌の一例. 第 52 回 小腸研究会. 東京 2014 年 11 月 15 日
- 8) 藤井俊光、長堀正和、渡辺 守. クロウン病における MRenterocolonography (MREC)での病態評価と入院・手術予測. JDDW 2014kobe. 神戸. 10 月 23 日.
- 9) 峠 千晶、村川美也子、齊藤詠子、藤井俊光、和田祥城、藤田めぐみ、井津井靖浩、大島茂、岡田英理子、中川美奈、岡本隆一、土屋輝一郎、柿沼晴、東正新、永石宇司、大岡真也、長堀正和、中村哲也、荒木昭博、大塚和朗、朝比奈康浩、渡辺 守. 転移性骨髄腫の免疫染色で診断し得た原発性小腸癌の一例. お茶の水消化器病セミナー. 東京 2014 年 8 月 30 日
- 10) 竹中健人、大塚和朗、藤井俊光、長堀正和、齊藤詠子、荒木昭博、渡辺 守. クロウン病の小腸病変に対するバルーン内視鏡所見と予後の検討. 第 98 回日本消化器内視鏡学会 関東地方会. 東京. 2014 年 6 月 14 日 -15 日
- 11) 齊藤詠子、大塚和朗、藤井俊光、長堀正和、渡辺 守. 難治性潰瘍性大腸炎(UC)におけるタクロリムス(Tac)及びインフリキシマブ(IFX)使用例の内視鏡的検討. 第 98 回日本消化器内視鏡学会関東地方会. 東京 2014 年 6 月 14 日 -15 日
- 12) 荒木昭博、新田沙由梨、渡辺 守、藤井俊光、大塚和朗、穴戸華子、岡田英里子、鈴木康平、竹中健人、長堀正和、和田祥城、加納嘉人、齊藤詠子 カプセル内視鏡の画像保存. 日本消化器内視鏡学会総会. 福岡 2014 年 5 月 15 日
- 13) 齊藤詠子、長堀正和、渡辺 守. IBD の治療 ; Real practice における選択とその根拠. 第 100 回日本消化器病学会総会. 東京 2014 年 4 月 25 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

- 1 . 特許取得
なし
- 2 . 実用新案登録
なし
- 3 . その他
なし